

Y. N. 日本語日本文学科 2 年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

協定留学を目指した理由として、大学で新しく学び始めた中国語を頑張りたいという語学面の理由もありますが、一番は、将来日本語教師になる上で日本に留学する日本語学習者と同じような体験をしておくことが必要なのではないかと考えたからです。同志社女子大学には中国語を学べる留学プログラムが協定大学への留学のみだったので、協定留学を目指すことに決めました。留学を考えた時期は、大学に入学することが決まった時に留学制度を知り、その時から中国語を勉強できるところに留学しようと決めていました。

② 留学を目指してから出願までの中国語学習方法

出願するために HSK が必要だったので、HSK の勉強を続けました。また、中国語の映画などを見て勉強していました。

② 留学決定から出発までの準備期間

私はパスポートを持っていなかったもので、留学が決まって直ぐに取得しました。これから留学の準備をする上で、ほとんどの手続きにパスポートが必要になってくるので、最初に取りおくべきだと思います。マルチビザにするとそのビザで何回か日本に帰国できるようになりますが、期間が決まっているので早めに取りすぎるとマルチを取った意味が無くなってしまいます。私は帰国時の航空チケットを渡航する時にチケットを買った時、一緒に買いましたが、友人は行きのチケットのみを買っている人が多かったです。

③ 現地到着後

台湾桃園（トウエン）国際空港に到着後は、中国文化大学まで電車とバスを使うか、タクシーを使えば行くことができます。私は電車とバスを使いました。キャリーケースなどの大きな荷物を持って初めての場所でよくわからないまま動くことは辛かったので、タクシー利用がおすすめです。私は学校が始まる 10 日ほど前に大学内の寮に入ったのですが、その時には、ほとんど人がいませんでした。学校が始まるまでは、日用品を揃えるために買い物に行って過ごしました。オリエンテーションは学校が始まって、しばらくしてから保険のことなどについて外国人学生向けのものが 1 度ありました。入寮した後に大学の事務室みたいなところで寮費を現金で払いました。1 年留学する人は ARC（台湾の居留証）の申請に行っていました。

⑤ 語学研修期間

特にありませんでした。

⑥ 正規科目履修期間

◆大学の施設・環境について

大学内に寮があるので教室までは 10 分以内に着きます。同志社女子大学の机と違い、一人

ひとり座る小さい机でした。ごはんを食べながら授業を受ける人が多かったです。

◆履修科目

中国文化大学の正規生と同じ授業を受けることもできましたが、私の語学力が足りず、外国人学生用の授業を受けました。

◆授業、レポート、定期試験

授業はすべて中国語で行われました。初級の授業でも簡単な中国語を使って理解できるように説明してくれました。レポートはなく、中間試験と期末試験の2つがありました。ほとんどの授業で2つのテストがありました。

⑦クラブ、課外活動、ボランティア活動

たくさんのクラブやサークルがあり、スポーツクラブにプレーヤーとして参加している人もマネージャーとして参加している人もいました。料理部のようなものもあり基本的にみんな大歓迎してくれます。課外活動は国際課が主催してくれる原住民の生活を体験するものや、台中の方へ行くことができる旅行など、たくさん活動があります。他にも、ある授業のクラスメイト全員でロクロを回しに行ったり、外に出掛けたりなどの課外活動がありました。

⑧現地での住まいについて

寮は学内にあります。正規生でも寮に住んでいる人は多いため、たくさんの学生がいます。留学生が入る寮は11階建てで、私は10階でした。日本人はたくさんいたので、私の部屋は6人とも日本人でした。しかしながら、様々な国の学生がいる部屋もあったので、必ずしも日本人だけに割り当てられる、ということではないようです。生活する部屋にキッチンはありませんが、寮の中にはあるので借りることはできます。学校の近くにご飯屋さんがたくさんあるので、飽きることなくご飯を食べることができました。学食もあるので、それも良く利用していました。

⑨長期休暇の過ごし方

特にありませんでした。

⑩留学期間中の就職活動の取り組み

私は特に活動していませんでしたが、インターネットで就職活動をしている人はいました。

Ⅱ. 留学の感想

①留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

たくさんの国の人と交流できたことが楽しかったです。台湾の人はもちろんですが、特に韓国人とたくさん遊びました。一番の思い出は帰国の時に仲良くしてくれた友達が手紙を書いてくれたことです。中には日本語で書いてくれたものもあり、もらってとても嬉しかったことを覚えています。

②留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

辛かったことはそんなにありませんでしたが、しいて言えば生卵が食べられないため、卵掛けご飯を食べることができませんでした。また、辛い料理が日本と比べて多いため、辛い物が苦手な私にとって困ることがありました。最も苦勞したことは、台湾人に自分の要求を中国語で伝えることです。留学生とだと伝わる発音が台湾人相手だと通じないことが多々ありました。

③文化・習慣の違いなどで驚いたこと

お店の店員さんが気軽に「バイバイ」と言うことに驚きました。日本では友達同士で使う言葉ですが、台湾では誰にでも使っているイメージがあります。私はフレンドリーでとても良い文化だなと思いました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

台湾人や日本人以外の留学生とかかわる機会がとても多かったことが、中国文化大学の良い所だと思います。しかし、山の上にあるので遊びに行く際には、まず30分かけて山を下りないといけないので交通の便は悪いと思います。

②日本から持って行って、特に役に立ったもの

基本的に台湾で必要なものは揃えることができます。日本食も買うことができますが、とても高いので、たくさん持って行った方が良いと思います。

③語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

最初はほとんど中国語が聞き取れない状態でしたが、ゆっくりと伝えてもらえれば何となく理解できるようになりました。留学生同士の会話はかなりスムーズにできるようになったと思います。また、この留学でたくさん友達ができたため、自分に自信が付いて、あまり人見知りをしなくなりました。

④これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

台湾人や日本人以外の留学生には、日本が好きで日本のことを知りたいと思ってくれる人がたくさんいます。また、お菓子の交換をする機会がたくさんあったので、日本のお菓子を持っていくと良いと思います。あとは怖がらないで、様々な人に話しかけてみるとたくさん友達ができます。たくさん友達を作って楽しい留学生活にしてください！

Ⅳ. 将来の目標

①今後の進路、将来の目標・夢

今回の留学で学んだことを生かして、実際に日本に留学してくる日本語学習者に日本語を教えていきたいです。台湾に留学して台湾がすごく素敵な場所だとわかったので、台湾で働くという新しい選択も増えました。

V. 写真



部屋からの景色です。山の上なので夕日もとても綺麗に見えました。たまに誰かが打ち上げ花火を上げているのも見えます。



台湾の朝ごはんです。どれもとてもおいしいですが私は一番手前にある咸豆浆（シェントウジャン）が好きです。豆乳のスープのようなもので中には油条（イウティアウ）という揚げパンが入っています。



夜市の様子です。台湾にはいろんなところに夜市があり、海に近くなると海鮮が増え、その地方の特色も楽しめます。



台湾の有名なお土産であるパイナップルケーキを作った時の写真です。この時に韓国人の友達と、とても仲良くなることができました。